



ひよこ組

【1月の保育のねらい】

- ・布や人形を使って、保育者と一緒に生活の再現遊びを楽しむ。
- ・遊びや生活の中で、自分の思いを簡単な言葉や仕草で伝えようとする。

＜くまちゃん、ねんねだね！＞

少しずつ気温が低くなってきて、室内で過ごすことが多くなってきました。最近、保育者が絵本を読んでいると、その言葉を真似して話してみようとしたり、「うんうん」とうなずくと、同じようにうなずいてみたり。こどもたちは、真似っこをするのが大好きです。

クマの人形を見つけると、嬉しそうにギュッと抱きしめ、頭をなでるような姿も出てきています。人形を布団にそっと寝かせて、トントンと優しく寝かしつけるようにもなってきました。「くまちゃん、ねんねしてるね」と言うと、「ねんね！ねんね！」と嬉しそうに教えてくれます。また、色水が入っている小さなペットボトルを哺乳瓶に見立て、人形の口にあてて飲ませてあげる真似をしていることもあります。まるでお世話をしてあげている保育者のようです。

保育者や友だちがやっていることに興味を持ち始め、遊びの幅が広がってきたこどもたち。生活の中で体験したことを思い出したり、想像力を働かせて再現して遊ぶようになってきています。イメージが広がるような人形や布等の玩具を用意しながら、一緒に再現して遊ぶことを楽しんでいきたいと思えます。



りす組

【1月の保育のねらい】

- ・自分で洋服の脱ぎ着をしようとする。
- ・動作や言葉で自分の気持ちを伝える。

＜自分でやってみよう！＞

長いお休みの間、どんなことをして過ごしたのでしょうか。こどもたちから「〇〇したよ」「〇〇食べたよ」とお話を聞くのが楽しみです。

少し前からりす組のこどもたちは靴、靴下、オムツ、ズボン、洋服などの身の回りの脱ぎ着を自分でやってみようとしています。お休みの間も自分でやってみようとする姿が見られたでしょうか。特にズボンは自分でやってみようとするのが多く見られます。自ら足を入れ、グッと上に引っ張って履こうとしたり、足を入れるのが難しい子は「ん！ん！」「できない」「やって」と自分なりの仕草や言葉で伝えてくれます。自分でやりたいけど上手に出来なくて、もどかしい気持ちになることもあります。そんな時は、自分でやりたいという気持ちに寄り添いながら、どこに足を入れるのか、どうやって履くのかを伝えて、一緒に脱ぎ着しています。洋服の脱ぎ着の仕方はわかっているけど「今はやりたくない」「この人と着替えたい」「(手伝わないで！)自分で！！」などこだわりや自己主張も出てきました。少し時間をおいたり、着替えたい人と着替えられるようにしたり、自分でやる姿を見守ったりと、一人ひとりの思いを汲み、関わっています。



うさぎ組

【1月の保育のねらい】

- ・コマや凧あげなどの伝統遊びに触れ楽しむ。
- ・保育者や友だちと遊ぶ中で、言葉で自分の思いを伝えたり、やりとりを楽しむ。

＜おさんぽでの出来事～＞

誕生会の時にお楽しみ出し物として、「おおきなかぶ」のエプロンシアターをやってみるとみんなよくみて楽しんでくれました。その数日後薬師公園に散歩へ行った時のこと、大きな木の根元に細い根っこが土から飛び出てひげのようになっているのを見つけ、こどもが引っ張り始めました。その時、自然と「うんとこしょどっこいしょ」というセリフを言っていたのでそれに乗るようになって「おばあさんきておくれ」と言ってみると、それをそばで聞いていた子が嬉しそうに顔つきで一番目の子にくっつき「せーの」の掛け声に合わせて「うんとこしょどっこいしょ」と前後に体を動かして抜く動作をしています。それを近くで見ている子が、孫やネコ、ネズミにもなりきって次々とやってきては、長い列になり引っ張っていました。時にはズッコケて大笑いしながらも、掛け声と動作と一緒にやることを楽しんでいました。私は、掛け声を一緒に掛ける程度で見守っていましたがこんな風に遊べるようになってきたんだと微笑ましくも感動しました。友だちと一緒に再現して楽しむようになってきて、楽しさを共有することが出来ているんだと感じました。絵本を読む時間を大切にしてお話の世界と一緒に楽しんでいこうと改めて思いました。



ちゅうりっぷ組

【1月の保育のねらい】

- ・お正月遊びや伝統遊びを楽しむ。
- ・身の回りのことを自分でやろうとし、できたことを認められる嬉しさを感じる。

＜ルールのある遊びを楽しんでいます＞

ちゅうりっぷ組になってから鬼ごっこやかくれんぼなどのルールのある遊びを楽しんできました。

最近では中当てやだるまさんがころんだなどをよくやっています。中当ては、円の中にいる人が円の外にいる人にボールを当てられないようにする遊びです。勝敗が分かれるので、当てられてしまった子は悔しくて、泣いたりすねたりすることもあります。その分勝ったら嬉しかったり、友だち同士で励まし合ったりする姿も出てきました。

かくれんぼでは、「かくれんぼやろうよ！」「誰が鬼やる？」など、こどもたちだけで遊びが始まるくらい、親しんで遊んでいます。繰り返し遊んでいく中で、「1,2,3,4…」と数も数えられるようになってきました。隠れている人を見つけるのは鬼だけ（「〇〇」がいるよなどと教えない）、隠れている時には見つからないようにじっとするなど、ルールを守って遊ぶことの面白さが伝わるようになっています。だるまさんがころんだでは、ルールにアレンジを加え、「だるまさんが〇〇した」といった動作を取り入れた遊びも楽しいようです。成長を祝う会の『さつまのおいも』ごっこをきっかけに、ご飯を食べた、寝た、お風呂に入った、体操をしたなど、だるまさんになりきっています。友だちとかがわって遊ぶ楽しさを味わったり、順番・交代をしたり、友だちの気持ちを考えたり共感しながら、これからも楽しく遊んでいけたらと思います。



さくら組

【1月の保育のねらい】

- ・氷や霜柱などの冬の自然現象を知り、興味や関心を持つ。
- ・お正月ならではの遊び（カルタやコマなど）に興味を持ち、ルールを守って気の合う友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。

＜みんなでクッキー作り＞

クッキー作りを提案してから、当日を心待ちにしていたさくら組。材料を紹介する段階から、とても目を輝かせていました。今回はきなこクッキーだったので、材料は全部でバター・牛乳・小麦粉・砂糖・きな粉の5つ。その中で、粉類の紹介は3択クイズ形式で行いました。中でも、砂糖（今回は粉の扱いにしました）について「甘いこの粉は何でしょう？」と砂糖・おだし・塩の3つを挙げると、「甘いのは砂糖だよ！」と知識を披露する子や、「でも茶色だよ？」と知っている「砂糖」とは違う色合いに頭をひねる子など、様々な思考する姿が見られていました。（園の砂糖は三温糖）

材料を知ったら、調理スタート。最初の砂糖をボウルにあけるところから、「甘い匂い！」「もう食べたい…」と嬉しそうなお声が聞かれていました。「このくらいいい？」と保育者と確認し合いながらバターと合わせると、次は粉類を投入。どんどんポロポロとした状態になる生地を見て、「これクッキーになるの？失敗？」と不安そうな言葉も聞かれましたが、牛乳を混ぜたらまとまってきたり、仕上げに保育者が練るところをみたりすると、ほっとした様子でした。最後に型抜きをして、調理さんに「お願いします！」と焼くのを頼むと、「早く食べたいね」と期待感たっぷり。焼きあがったクッキーは、おやつ時にみんなでいただきました。「おいしい！」「サクサクしてる～」と、自分たちで作ったクッキーの味に舌鼓を打っていたこどもたちでした。

これからも、「みんなで作った〇〇、おいしいね！」という共通体験を沢山していきたいと思えます。



もみじ組

【1月の保育のねらい】

- ・冬の生活の仕方がわかり、自分の体や健康に関心をもって過ごす。
- ・お正月遊びを通して、友だちと遊びを工夫したり文字や数量に親しみながら楽しむ。

＜緊張したけど、楽しかった！＞

成長を祝う会をみていただきありがとうございました。

もみじ組ではこどもたちのやりたいことを話し合い、みんなでアイデアを出し合いながら作り上げました。自分の思いを友だちに伝えたり自分の思いだけではなく友だちの思いを汲んだり、また、いつもの話し合いとは違い、「自分の表現したいこと」を「どう伝えたらいいの？」なども、一人ひとり考えながら友だちともやりとりをしていきました。「昨日は声が小さかったけど、今日はすごく良く聞こえたよ！」など、友だちからの言葉は大きな自信にもなっていました。その姿を当日、舞台の上でお母さんお父さんにしっかりと見せることもできたと思います。行事をやり終えて得た自信が、次への頑張る力になると思えます。ご協力ありがとうございました。

『書いてみたい！』

年末に友だち同士で年賀状を書き、ポストに投函しました。お正月に自分宛の年賀状を手にして、感激したことでしょう。文字や絵で表現することの楽しさや相手へ伝える喜びを感じ、興味や意欲に繋がっていくといいなと思えます。

